



国際ロータリー第2790地区  
The Rotary Club of Yachimata

## 八街ロータリークラブ週報

<http://www.joy.hi-ho.ne.jp/yachimataarc/>

例会場 八街商工会議所 3階 大ホール

毎週水曜日 12:30~13:30

電話 043 - 443 - 3021

FAX 043 - 443 - 7221

創立 1966年(昭和41年)5月22日



2019-2020年度  
国際ロータリー会長  
マーク・ダニエル・マローニー  
Decatur RC(アラバマ州)

会長 増田 繁 ・ 会長エレクト 木村 利晴 ・ 副会長 笹川 英一 ・ 幹事 笹川 英一

第54巻 第24号 通巻 第2585号 2020. 6. 24発行

第2584回 2020年6月17日例会報告

### 【出席報告】

SAA 小澤 孝延

### 【会長挨拶】

会長 増田 繁

例会	出席計算会員数	出席	欠席	出席率%	MU	修正出席率%
6/ 17	28	24	4	85.71		
6/ 3	28	23	5	82.14	4	96.43
会員総数 30名						
( 名誉会員 3名 ・ 出席免除会員 5名 )						
通算出席率 87.67%						
6月3日メイクアップ4名・生形会員、小澤会員、 木村会員、林会員(理事会)						



皆さんこんにちは。第2019~2020年度八街ロータリークラブの活動も残すところあとわずかとなりました。

本日は第10グループガバナー補佐の寒郡様、ガバナー補佐幹事の鈴木様、ようこそご来訪いただきました。また東金RCの並木様にはメイキャップにご出席いただきました。ようこそお出で下さいました。

さて、今年度のクラブ活動ですが、前年はまあまあ順調に終始しましたが、新型コロナウイルスの影響で、すべての活動がストップする状況の中で、何もできませんでした。

振り返ってみれば、10月の大台風、100年に

点 鐘 会長 増田 繁

ソ ン グ 我等の生業

お 客 様

第10グループガバナー補佐  
寒郡 茂樹様(富里RC)

ガバナー補佐幹事  
鈴木 寛尚様(富里RC)

並木 孝治様(東金RC)

一度あるかないかの豪雨、そしてコロナパンデミックと八街クラブ創立以来記録に残る出来事であったと思います。そのような訳で本年度事業も計画通りにはいきませんでした。せっかく計画していただいた各委員会には申し訳なく思っております。あと残り1回の例会となりますが、引き続き頑張っていこうと思います。

## 【幹事報告】 幹事 笹川 英一



◎例会変更のお知らせ

〈白井RC〉6月15日(月) 通常例会  
6月22日(月) 通常例会  
6月28日(月) 親睦ゴルフ  
(船橋カントリー倶楽部)

## 【感謝状】 諸岡ガバナーより



2019-20年度  
国際ロータリー第2790地区  
米山記念奨学委員会

副委員長 生形 健一会員

## 【委嘱状】 漆原ガバナーエレクトより



2020-21年度  
国際ロータリー第2790地区  
米山記念奨学委員会

委員 生形 健一会員

2020-21年度  
国際ロータリー第2790地区  
青少年奉仕委員会

委員 小久保 和子会員

## 【ご挨拶】 第10グループ ガバナー補佐 寒郡 茂樹様



1年間ありがとうございました。2019-20年度は台風災害もありまた、新型コロナウイルスの蔓延による影響で、成田空港でのエンドポリオ活動を兼ねたインターシティミーティングが開催できなかったことは大変残念に思います。年6回を予定しておりました会長幹事会

も、最終の会議をすることができませんでした。年度をまたいで新型コロナの状況を鑑みながら開催したいと思っておりますので、ご了承ください。

ロータリークラブの活動においても大きく変革した年になったと思っています。メーキャップの年度内の有効といったこともありますが、2020年7月より、ローターアクトクラブがR Iの加盟クラブに含まれるということ。それも、人頭分担金も徴収され、会員の年齢制限の上限も撤廃されるということ。つまりは、各ローターアクトクラブ毎に自由に年齢制限を決定するということは、現状のロータリークラブと何ら変わらないものであると思います。これは非常に大きな変革であると感じます。

クラブの例会に関しても、会員が例会場に集まって開催することは、新型コロナの影響もあり、大変難しい状況でありました。そのため、オンラインでの例会の開催や、YouTubeなどのメディアを使った広報など、ロータリークラブの運営そのものが大きく変わろうとしています。R Iの理事会は、2020年の年末まではオンラインで実施すると決定しておりますし、バーチャル世界大会を6月20日から26日まで、ウェブで配信していくとのことでございます。

第10グループにおいても、印西クラブはズーム例会を行っておりますし、成田クラブや富里クラブは、ズームとの併用例会を開催していると聞いております。八街クラブさんにおいても、是非ご検討いただいて、オンラインにての例会も実験的に行っていただければ幸いです。

また、ガバナー補佐の選出についてですが、次期ガバナーエレクトの梶原さんから、梶原年度はガバナー補佐をガバナーが直接指名したいとの意向が示されています。第10グループにおいては、前年度の会長幹事会でガバナー補佐は各クラブの持ち回りで選出していこうとの取り決めもございますし、順番で行けば八街クラブさんからの選出になります。このような経緯につきまして、会長エレクトの木村さんから詳しくお聞きいただければと思います。

激動の1年であったと思いますが、ガバナー補佐をさせていただき、親クラブである八街ロータリークラブさんの例会でもこのように挨拶ができる機会を与えていただいたことは、本当に感謝いたしております。今年1年間ありがとうございました。

## 【誕生月卓話】

## 林 政男会員



本日は、誕生日卓話の機会をいただきありがとうございます。先の例会では、八街市の特別定額給付金の申請状況、振り込み状況についてご報告いたしましたが、本日は、6月12日現在の千葉県内54市町村の振り込み状況についてご報告致します。

八街市は、全市町村中、給付率81.3%で26位、



37市の中では10位となっています。県内トップは、神崎町の95.9%、最下位は、佐倉市の2.7%、県内平均は、31.8%です。

ちなみに近隣市町と言いますと酒々井町83.5%で24位、白井市55.3%で35位、成田市40.8%38位、富里市は、39.4%39位、四街道市32.1%42位、印西市17.0%で47位となっております。

なお申請された方で不要欄にチェックされた方が、11世帯ございましたが、6世帯の方は、誤記入ということでした。残りの5世帯中3世帯は、ご不要ということでございました。残りの2世帯につきましては、着信拒否又は連絡先無しということで連絡が取れていません。

## 【誕生月卓話】

## 鈴木 慶夫会員



新型コロナウイルス感染に伴う制限も19日東京都が休業要請を全面解除することになり普段の生活に向けて進み始めました。日本は死亡率も少なくWHOが日本の対策を称賛していました。清潔感を旨とする生活習慣と豊富な水資源のある豊かな自然環境等あるいはそのような中で培われたしなやかで強い体質のDNAを受け継いできたことも要因の一つかなとも思われます。この要因であるファクターXを解明し、次に備えたいと京都大学の

山中伸弥教授が提言していましたが、日本人の特有なDNAの可能性には興味を惹かれます。

三密を防ぐ長い生活の中でマスクの常時使用、在宅勤務、テレワーク、ホテル通勤、休校と九月入学問題、1次2次補正予算10兆円の予備費の規模等の議論等様々な新たなことに直面してきました。まさにパラダイムシフトそのものであります。ちなみに私が会長として関わっています中小企業診断士の診断グループのボランティア団体名がはからずもそのものパラダイムシフト研究会なのであります。実績は過年度では船橋市のホンビノス貝の生産業者のマーケティングや本年では某社会福祉協議会の自己財源の健全化診断と助言がありますが、その作業はまさにテレワークでの作業といったところです。

在宅勤務、テレワークといった新たなビジネス環境に急激にシフトされましたが、皆様も経験済みのことと思いますが、私自体も受動的に体験することになりました。在宅勤務のある企業の社員からメールが送られてURLを開いてZoomで打合せをするように要請されビデオ会議のようなものを体験することになりました。相手が資料を示し説明することにならずにただでしたが新たな働き方の可能性を感じました。

情報化はずいぶん前から叫ばれてスカイプを行っていた時期もありました。現在は仕事の一部はクラウドで行っていますが、やはり重要な局面では面談での仕事の進め方が欠かせません。しかし、実際にZoomを経験してみるとわざわざ船橋、千葉まで出かけなくとも仕事ができるんじゃないの、ひとつ取り組んで

みるかと希望が出てきました。これを契機に実務の中にテレワークを定着していこうという意欲が強くなってきました。こんなときコンサルタントの加藤大河さんの「コロナが流行る前はリアルの方が絶対いいと思っていました。しかし、コロナで価値観はガラリと変わりました。今まで一日に3件のミーティングで一杯一杯でしたが、zoomを使えば、8件のミーティングをこなせるようになったのです。Zoomを使うにしても、デジタルに弱くて、座っているだけオジサンは本当に排除されていく効率社会への転換です。」というコメントには全く同感だと意を強くしました。

学校の休校が長くなり事業年度の問題として9月入学も取り上げられましたが、先送りとなり九月入学を現実の問題として考えた場合、日本の社会風土を考えると踏み切れないものがまだまだあるのかと思いました。藤井聡京都大学教授が「何十年越えの制度を変えろというのはあほとちゃうかほんまにどんなメリットがあるんや」と大批判していました。個人的にはそのとおりでグローバリズムの退潮がはっきりとしてきて、国内回帰に向かう状況も一因かなとも思われます。数年前には東大が海外の留学生を呼び込むために海外に合わせた9月入学の推進をしていた時期がありました。実現しませんでした。話は飛びますが、東大京大の邪馬台国九州説畿内説の100年にわたる論争を連想してしまいます。ついでですが邪馬台国の所在地は個人的には魏志倭人伝を素直に読み解いて地名が現在四国の地名と合致する四国徳島の山上説に納得がいきます。

補正予算第一次真水で25兆余り第二次真水で31兆余り当初予算102兆余りの半分を超えます。いずれも資金繰り対策と持続化給付金等がメインとなっています。直接、身近な話では中小企業向け持続化給付金で法人200万円、個人100万円さらに千葉県中小企業再建支援金40万円そして八街市中小企業元気アップ支援事業10万円これらはセットでのもので返済の必要のないものです。パソコンやスマホから申し込むこととなっていますが、その環境にないのであれば持続化給付金申請サポート会場に予約を取って申請のサポートを受けて申請を済ませることになっています。

これらのコロナによる財政出動はわが国では西田昌司参議院議員安藤裕衆議院議員藤井聡京都大学教授三橋貴明経済評論家らが以前から唱えていたMMTのまさにその実験あるいは実践の場となるものと思われませんが、その規模は31兆ではまだまだ少ない100兆はほしいとのこと。

ちなみにMMTは自国通貨を発行する政府は市場の供給能力を上限に貨幣供給をして需要を拡大することができるというものです。国の借金が膨張しているのに財政破綻しない日本がMMTの正しさを示す見本とも言えます。しかし、財務省は依然としてPBに固執していますが、2025年PB黒字化目標は確実に無理な状態となりました。

昨年10月の消費増税は全くのナンセンスというものだったと思われれます。そのような中で「日本の尊厳と国益を護る会」「日本の未来を考える勉強会」の自民党議員は消費税減税の議員立法に奔走しています。既にドイツでは

3%の減税を決めていますが、大いにエールを送りたいと思います。

以上のようなコロナウィルスによるパラダイムシフトは歴史的に見れば14C欧州の人口の3分の1ともいわれる2500万人の死亡を出したペストによるその後のルネッサンスの到来を思い浮かべることができます。私は職業上の関心事からパンデミック後ルネッサンスの中の会計についてみてみたいと思います。

田中靖浩公認会計士が会計の世界史で取り上げた絵画と経済の関係は興味深いものがあります。レオナルド・ダ・ヴィンチはルネッサンス期に活躍した芸術家で皆さんもご存じの代表作にはモナリザ、最後の晚餐、受胎告知等数多くあります。

彼は婚外子ということで父の公証人を継ぐことが出来ずに父のコネでフィレンツェの有名工房ヴェロッキオの工房に入門することになります。ヴェロッキオの絵にトビアスと天使があります。トビアスは盲目の父の代わりに売掛金回収の旅に出ますが天使が同行守っている絵です。当時、東方貿易で稼ぎまくっていたイタリア商人には危険がつきまとっていました。その守り札ともいう絵とされています。また、いちいち遠路危険な旅をしなければならなかった商人に代わって現在の銀行の祖となるバンコが出現して為替業務を請け負ってくれました。後発組で有名になったのがフィレンツェのメディチ銀行です。各支店で共通の帳簿記入システムと定期的に支店長たちが多くの帳簿をもって本店に集まり、突合せを行っていました。このようにして簿記と銀行がイタリアで生まれたと言われています。

レオナルド・ダ・ヴィンチはその後、当時新興国であったミラノに向かいます。そこでサンタ・マリア・デレ・グラツィエ修道院の食堂の壁に最後の晚餐を制作します。もう30数年前のことですがアンカレッジ経由でヨーロッパに研修旅行に行った際にこの修道院に入り見ましたが記憶に残っているのは中庭の回廊で待っていたことぐらいです。

このころミラノにいたのが数学者のルカ・パチョーリでレオナルド・ダ・ヴィンチはこの数学者から数学の基礎を学び、最後の晚餐の遠近法にもそれが生かされることになります。ルカ・パチョーリは簿記の父とも言われています。もともとベネチアやフィレンツェの商人がそれぞれ簿記をつけていましたが、かれはスンマという数学全書600ページの中の27ページに簿記のことをまとめています。これがきっかけでイタリアに簿記が普及しました。当時の会社はパートナーシップで仲のいい者同士が金を出しあって事業をやっている分配の問題が出てくる仲良くやっていくためには年に一回は決算をやるのが大切だと説いています。その決算のやり方まで事細かに指示しているものです。

レオナルド・ダ・ヴィンチの受胎告知にも遠近法は使用されていますが、年一回の決算をする日に中世の帳簿には3月24日の決算のものがあります。年度は3月25日から3月24日の年度のものですが、3月25日はまさに受胎告知の日です。私もこの年度のものに1回だけ遭遇しました。キリスト教徒ではないのでわからなかったのですが、やっと呑み込めました。